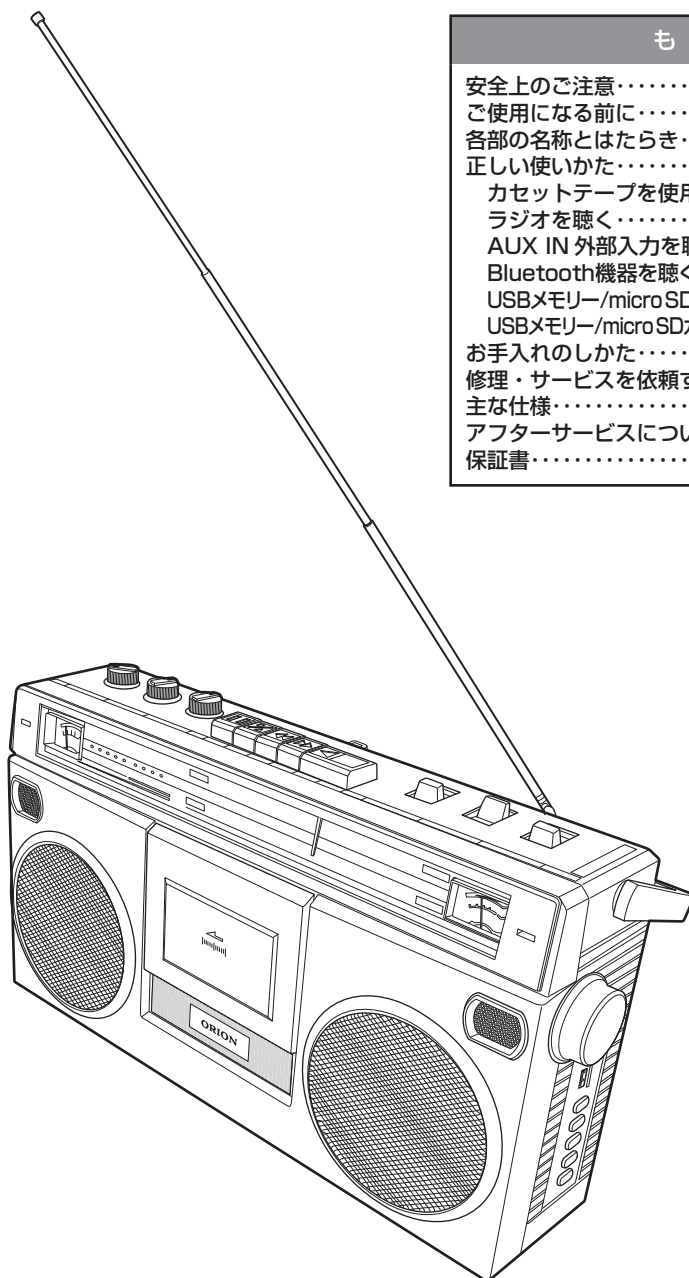


ORION

Bluetooth[®]機能搭載ステレオラジオカセット SCR-B7

取扱説明書・保証書

このたびは、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。正しくご使用いただくために必ずこの取扱説明書をよくお読みください。なお、お読みになられたあともいつでも見られるように大切に保管してください。





も く じ



安全上のご注意	P. 2
ご使用になる前に	P. 4
各部の名称とはたらき	P. 6
正しい使いかた	P. 8
カセットテープを使用する	P. 10
ラジオを聴く	P. 12
AUX IN 外部入力 を聴く	P. 13
Bluetooth機器を聴く	P. 14
USBメモリー/microSDカードのMP3を聴く	P. 16
USBメモリー/microSDカードにMP3録音する	P. 18
お手入れのしかた	P. 20
修理・サービスを依頼する前に	P. 21
主な仕様	P. 23
アフターサービスについて	裏表紙
保証書	裏表紙

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保管してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペットなどにかかわる拡大損害を示します。)





図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示しています。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

 禁止	交流100V以外では使用しない。 電圧の違うところ、自動車・船舶などの直流電源には接続しないでください。火災・感電の原因になります。	 禁止	本体に強い衝撃を与えたり、落下させたりしない。 衝撃を与えてしまったときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、点検修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。	 指示	電源プラグの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合は拭き取る。 ホコリが付着したまま電源プラグを差し込むと、ショート・火災の原因になります。
	海外で使用しない。 本製品は日本国内専用です。		雷が鳴り始めたら、ロッドアンテナや電源プラグに触れない。 感電の危険があります。		取りはずした乾電池の扱いに注意する。 幼児の手の届かないところに保管してください。乾電池を口に入れたり、ショートさせたりすると事故の原因になります。
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものをのせたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。		乾電池を充電しない。 乾電池の破裂・液もれが起こり、火災やけが・故障の原因になります。		
	電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。 感電・ショート・発火の原因になります。		乾電池は直射日光が当たる場所や火の近くなど高温になる場所に置かない。 液もれや破裂・火災などの原因となります。		 プラグを抜く
	子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところでは使わない。 けが・感電の原因になります。		ろうそくなど、炎の出るものを近くに置かない。 炎が近づくと、火災の原因になります。		
	本体のすき間にピンや針金などの金属物など、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。		異常時(こげ臭い、発煙など)は電源プラグを抜き、使用を中止する。 火災・感電の原因になります。電源プラグに容易に手が届く位置のコンセントを使用して設置してください。		 分解禁止
電源コードを乳幼児の手の届くところに置かない。 コードが誤って首に巻き付いたりして事故の原因になります。	 使用禁止	 ぬれ手禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドウシヤカスタマーセンター(裏表紙参照)にご相談ください。		
本製品にダストスプレー(エアダスター)を使用しない。 製品内部にガスが溜まった場合、引火し爆発する恐れがあります。			 水ぬれ禁止	ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない。 感電の原因になります。	
				水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。 ショート・感電の原因になります。	

⚠ 注意

 禁止	次のようなところでは使わない。 ●ガスコンロなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しぶきがかかるところ ●ホコリの多いところ 変色・変形・火災・感電の原因になります。	 禁止	指定以外の乾電池を使用しない。 違う種類の乾電池、新旧の乾電池を混ぜて使用しない。 乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になります。	 指示	音量に注意する。 使用前には音量を最小にするようにし、使用中も音量を大きくしすぎないように注意してください。長時間、耳を刺激する大きな音量で聴き続けると聴力に悪い影響を与えます。
	窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災や感電の原因になります。	 指示	乾電池の極性に注意する。 乾電池を取り付けるとき、乾電池の+(プラス)と-(マイナス)に注意し、表示どおりに正しく入れてください。乾電池の破裂や液もれにより、火災・けが・故障の原因になります。		持ち運びするときは、ロッドアンテナをたたむ。 けがや故障の原因となります。
	不安定な場所で使わない。 転倒や落下、けが・故障の原因になります。		電源プラグを抜くときは電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く。 感電・ショート・電源コードの断線の原因になります。		持ち運びするときはUSBメモリーやmicro SDカードを取りはずす。 けが・故障・USBメモリーやmicro SDカードの破損の原因となります。
お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。			長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。 液もれにより、火災・けが・汚れの原因となります。		

ご使用になる前に

カセットテープについて

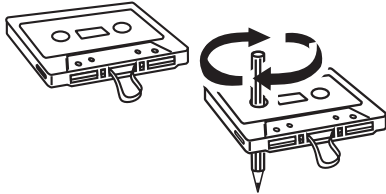
カセットテープの取り扱いについて

長期間使用していない、古いテープは使用しない。経年劣化により、テープにカビが生えたり、磁性体がはがれやすくなっているカセットテープを使用すると、本機にダメージを与え、テープの巻き込みや切断などの原因になります。

テープのたるみをなくして使用する。

テープのたるみは、テープの巻きつきや、切断の原因となります。

テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいるときは図のように鉛筆などで直してからご使用ください。



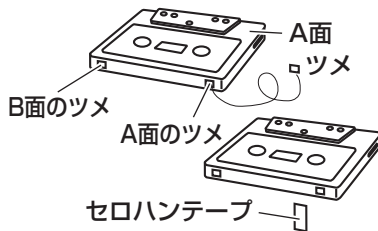
テープを本機に入れたままにしない。

長時間録音再生しない場合は、テープが傷むのを避けるため、本機に入れたままにしないでください。テープは途中で取り出さず、必ず巻き戻し、ケースに入れて立てて保管してください。

大切な録音を消さないために

録音禁止にすると立てに保管しているカセットの後ろ側にある「ツメ」を折っておく。

保存しておきたいようなテープの場合には、カセットの後ろ側にある「ツメ」を折っておくと録音禁止になり、間違えて大切な録音テープに上書きせずに済みます。また、再び録音したい時は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。



ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押し続けると故障する場合があります。

リーダーテープについて カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音できません。

すぐに録音を開始させたい場合には、録音の前にこの部分を送っておいてください。

テープの種類について 本製品で可以使用できるテープはノーマルテープのみです。

ノーマルテープ以外(メタルテープやハイポジションテープなど)は十分に性能が発揮できません。さらに、重ね録りで前の録音が消えずに残ってしまうなど、問題も発生するため、使用しないでください。

長時間テープを使わない。

90分以上のテープは変形しやすく、また伸びやすいため、なるべくご使用をお避けください。

エンドレステープを使わないようにしてください。

NRについて(再生/録音) 本製品にはNR(ノイズ・リダクション:雑音除去)機能はありません。

他のカセットデッキでNRを使用して録音されたテープは、本製品で聴くと音質が異常に聴こえます。

著作権について

あなたが録音したものは個人として楽しむなどの他は著作権法上、権利者に無断で使用できません。

USBメモリー、microSDカードについて

USBメモリー

- ・ファイルシステム FAT32
- ・USB2.0対応

本機は、USBマストレージクラスデバイスにのみ対応しています。お使いのUSB機器がUSBマストレージクラスであるかは、直接USB機器の発売元にお問い合わせください。

※ 本説明書では接続できるUSB機器を「USBメモリー」と記載しています。

- ・本機で使用できるUSBメモリーは32GB以下です。
- ・USBハブを介してUSB機器を使うことはできません。
- ・本機では、USBメモリー内のファイルを移動させることはできません。
- ・機器の状態によっては正常に動作しないことがあります。

micro SDカード

- ・ファイルシステム FAT32

・本機で使用できるSDカードは、micro SDカードタイプ、SDHCタイプ 32GB以下です。(標準)SDカード・ミニSDカードを使用することはできません。

・本機ではmicro SDカード内のファイルを移動させることはできません。

・micro SDカードには、誤消去防止スイッチがありませんので、ご注意ください。

※本書(取扱説明書)などで本機で使用する「micro SDカード」のことを「SDカード」と記述することがあります。

MP3について

本機ではUSBメモリーやmicroSDカードに記録されたMP3(MPEG-1 Audio Layer-3)ファイルを再生することができます。

パソコンなどを使ってMP3のデータを作成する際は、使用するソフトの説明をよくお読みください。

・正式名称をMPEG-1 Audio Layer-3という音声圧縮の規格。

・MP3データの認識はファイル拡張子「.mp3」で行ないます。ファイル名には必ず拡張子「.mp3」を付けてください。拡張子「.mp3」のないファイルは本機では再生できません。また、ファイル名に拡張子「.mp3」を付けていてもMP3データ形式でないファイルは再生できません。

・ビットレート 96 ~ 320 kbps(推奨)

・サンプリング周波数 32kHz / 44.1kHz / 48kHz

・999以上のファイルまたは99以上のフォルダが記録されたUSBメモリーまたはmicroSDカードは、正常に再生できないことがあります。

・可変ビットレートで記録されたファイルは、正常に再生できないことがあります。

・データの状況によっては、本機では再生できなかったり、音が途切れることがあります。

・本機はフォルダー変更の機能は搭載していません。USBメモリーまたはmicroSDカードに記録された順番に再生を行います。

・DRM(著作権保護されたファイル)には対応していません。

Bluetooth について

Bluetooth(ブルートゥース)

本機はBluetoothの無線技術・ワイヤレスシステムを搭載しています。対応するプレーヤー、携帯電話などの音楽をワイヤレスで聴くことができます。

電波に関する注意事項

本機の使用周波数帯では、産業・科学・医療用機器などのほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)および特定小電力無線局(免許を要しない無線局)などが運用されています。

・本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

・万が一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の放射を停止してください。

通信について

・Bluetooth対応のマウスなどのパソコン関連機器と、ヘッドホンなど音楽機器を同時に使用すると、音が途切れたりすることがあります。

・本機などのBluetooth機器は無線LAN機器(IEEE802.11b/g/n)と同じ周波数帯(2.4GHz)を使用するため、近くで使用すると電波障害を互いに発生させて、通信速度低下や接続不能になることがあります。このような場合は、使用周波数を変更するか、できるだけ離して(10m程度)使用します。

・本機はすべてのBluetooth機器と接続を保証するものではありません。また接続するまで時間がかかるものがあります。

・Bluetooth機器どうしの接続で、対応する規格、周波数帯域、プロファイルの種類などによって接続できないことがあります。

安全にご使用いただくために

Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などに影響を与えることがあります。場合によっては事故をひきおこすこともありますので、以下のようなところでは持ち込まない、または電源を入れないようにしてください。

- ・病院など医療機関、電車・航空機
- ・自動ドアや火災報知機の周辺
- ・心臓ペースメーカー、医療用電子機器の近く

Bluetooth機能を搭載したセットを改造して使用したときは電波法に抵触します

本機は電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けており、その証として「技適マーク」が本機の裏面に表示されています。改造すると、技術基準適合証明が無効となります。

無効状態で使用すると、電波法に抵触しますので絶対に改造しないようにお願いします。

Bluetooth機能は日本国内で使用してください

本機のBluetooth機能は、日本国内での無線規格に準拠し認証を取得しています。海外でご使用になると罰せられることがあります。

Bluetooth部 仕様	
適合規格	Bluetooth Ver.5.1
通信出力	Class2
使用周波数帯域	2.4GHz 帯 (2.402 ~ 2.480GHz)
変調方式	G FSK.
プロファイル	A2DP、AVRCP
対応コーデック	SBC
通信距離*	(見通し) 約 10 m*
同時接続台数	1 台
記憶可能ペアリング台数	1 台

* 通信距離は目安です。周囲の環境により距離が変わることがあります。お使いのBluetooth機器によっては接続できないことがあります。詳しくはお使いのBluetooth機器の説明書をご確認ください。

使用環境について

結露について

- ・寒いところから急に暖かい場所へ移動させると、内部に水滴が付いたりする結露現象が起こります。
- ・この状態で使用すると、正しい動作をしないことがあります。このようなときは、電源を入れて1時間程度放置してください。内部の熱で結露が取り除かれ、正常に動作するようになります。

乾電池について

乾電池を扱うときは

- ・指定以外の乾電池は使用しない。
 - ・新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。
 - ・極性表示を間違えないで挿入する。
 - ・水や火の中に入れてたり、充電・加熱・分解・ショートしない。
 - ・液もれがおきたら使用しない。
- 乾電池はもちろん、本体も液がついた状態で使用すると危険なため、直接触れずに拭き取るようにし、販売店にご相談ください。
- 万が一、液が体に付いてしまった場合は、水で十分に洗い流すようにしてください。
- ・長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。
 - ・使いきった乾電池や、使用推奨期限の過ぎた乾電池もはずしておく。

FM補完放送について

FM補完放送(ワイ・AM放送の放送区域において難聴・災害対策のため、FM放送の周波数(従来の76~90MHz、新たに設定された90.1~95MHz)を用いて、AM放送の補完的な放送をしています)

- ・本機はFM補完放送に対応しています。
- ※FM補完放送を実施している放送局、周波数、聴取エリアなどは地域によって異なります。詳しくは各地域の放送局ホームページなどを確認してください。

著作権について

- ・本機でお客様がカセットテープ・ラジオ放送などから録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

免責事項について

お客様、または第三者が、この製品の誤った取扱・故障・その他の不都合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

製品の故障・誤動作または不都合によるテープやメモリーなどへの記録された内容の損害及び録音・再生など、お客様または第三者が製品利用の機会をのがしたために発生した損害など、付随的損害の補償については、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

録音されたものの使用についても、当社は一切の責任を負いません。

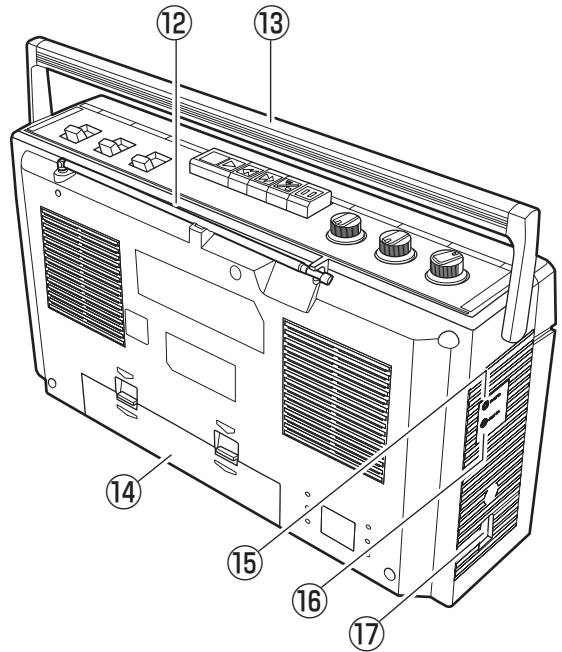
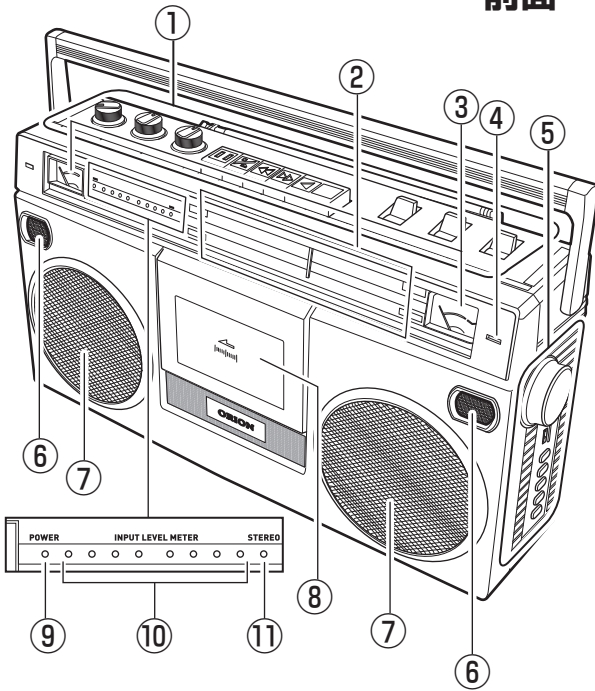
カセットテープはフィルムに粉末状の磁性体を塗布したものです。長年ご使用になっていないテープや長時間使用されたカセットテープなどは磁性体が剥がれやすく、またカビなどが発生している場合があります。そのようなテープを再生、録音した場合、本体のカセットヘッドやピンチローラーの故障の原因となります。またお客様のカセットテープの巻き込みや破損の原因となります。

ご使用されたカセットテープが原因での本機の故障については、保証期間であっても保証対象外となります。またテープの巻き込みや破断、破損については、当社は一切の責任を負いません。

各部の名称とはたらき

前面

裏面



① 上面操作部 ①～⑫
(→7ページ)

② 周波数表示
ラジオの選局に使用します

③ 出力レベルメーター(左・右)
音の強弱に合わせて針が動きます

④ 内蔵マイク
まわりの音を録音するときに使用します

⑤ 側面操作部 ⑬～⑰
(→7ページ)

⑥ ツィータースピーカー

⑦ フルレンジスピーカー

⑧ カセットホルダー
カセットテープを入れます

⑨ 電源ランプ
電源入のときに点灯します。

⑩ LED入力レベルメーター(左・右)
カセット・ラジオ・MP3再生・外部機器接続・BT接続時の入力信号のレベルに合わせて点灯します。

⑪ STEREOインジケーター
FMラジオでステレオ受信したときに点灯します。

⑫ ロッドアンテナ
FM放送を聴くときに伸ばし、受信しやすい方向に調節します

⑬ キャリングハンドル
本体の持ち運びをするときに使用します

⑭ 電池ふた(電池収納部)
乾電池で使用する場合、このふたをはずして単1形乾電池を入れます

⑮ ステレオイヤホン端子
ヘッドホンやイヤホンを接続します。3.5mm3極ステレオミニプラグに対応しています(接続するとスピーカーの音が消えます)

⑯ AUX IN 外部入力端子
外部機器を接続します

⑰ 電源端子
付属の電源コードを接続します

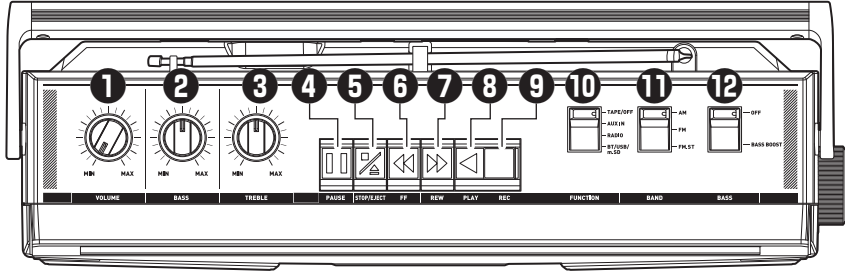
梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体..... 1台
電源コード..... 1本

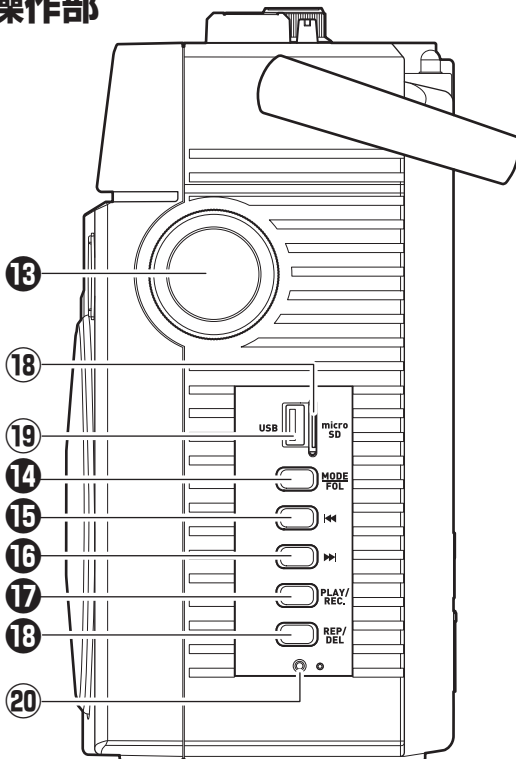
取扱説明書(保証書含む)..... 1冊

上面操作部



- | | |
|--|--|
| <p>1 音量つまみ
音量の調節をします</p> <p>2 BASSつまみ
低音域の調節をします</p> <p>3 TREBLEつまみ
高音域の調節をします</p> <p>4 PAUSEボタン
カセットテープ再生/録音の一時停止</p> <p>5 STOP/EJECTボタン
カセットテープ動作の停止/カセットホルダーを開きます</p> <p>6 FFボタン
カセットテープの早送り</p> <p>7 REWボタン
カセットテープの巻戻し</p> | <p>8 PLAYボタン
カセットテープの再生</p> <p>9 RECボタン
各音源のカセットテープへの録音</p> <p>10 MODEスイッチ
・カセットテープ・電源切
・AUX外部入力
・ラジオ
・Bluetooth・USBメモリー・micro SDカードの切替</p> <p>11 BANDスイッチ
ラジオのバンド(AM/FM/FM ST)の切替</p> <p>12 BASS BOOSTスイッチ
重低音の入/切</p> |
|--|--|

側面操作部



- | |
|--|
| <p>13 チューニングダイヤル
ラジオの選局をします</p> <p>18 microSDカードスロット
microSDカードを取り付けます</p> <p>19 USB端子
USBメモリーを取り付けます</p> <p>14 MODE/FOL ボタン
モード(Bluetooth/USB/microSD)の切替、長押しでフォルダの切替</p> <p>15 逆スキップボタン
前の曲にスキップ、再生時長押しで早戻し</p> <p>16 順スキップボタン
次の曲にスキップ、再生時長押しで早送り</p> <p>17 再生/REC.ボタン
再生、一時停止、長押しで録音開始</p> <p>18 REP/DEL ボタン
再生時のリピート機能の切替、長押しで曲の消去</p> <p>20 動作インジケータ
Bluetooth接続時/USBメモリー・microSDカード挿入時に状態によって赤・青・紫色で点灯・点滅します</p> |
|--|

正しい使いかた

電源の準備

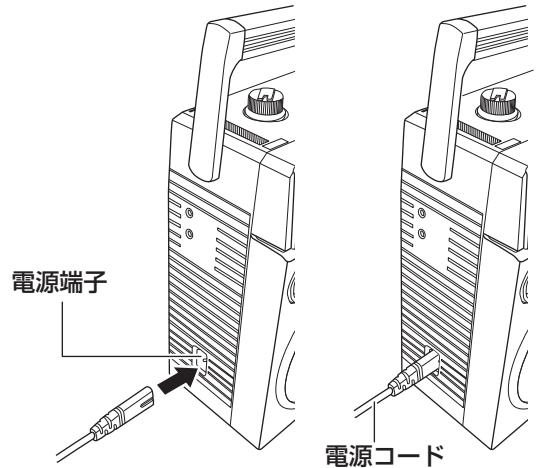
家庭用電源または乾電池で使用することができます。

- 家庭用電源で使用される場合は必ず乾電池を取りはずしてご使用ください。
- 本体に乾電池が入っている場合、電源プラグをコンセントに接続すると、家庭用電源に切り替わります。乾電池で使用される場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電源コードを本体から取りはずしてください。



家庭用電源で使用する場合

1. MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする
2. 電源コードを、本体側面の電源端子に差し込む
3. 電源プラグを、コンセントに差し込む

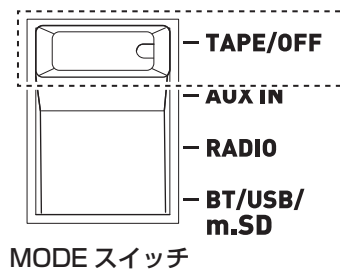


乾電池で使用する場合

1. MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする
2. 本体裏面の電池ふたをはずし、単1形乾電池6本（別売）を右図のように入れる

電池ふたのツメを押し下げながら、手前に引いて、電池ふたをはずしてください。

- 乾電池の-（マイナス）側を先に入れ、ばね側に押し込んで+（プラス）側を入れるように順番に入れてください。

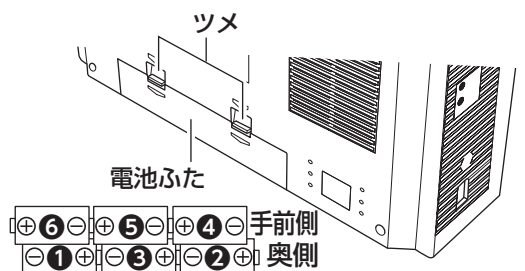


警告	<ul style="list-style-type: none"> • 乾電池は+と-の向きに注意して入れる。火災・故障の原因になります。 • 長時間使用しないときや、家庭用電源で使用するときは乾電池を取りはずす。
-----------	--

※「乾電池について」（→5ページ）もお読みください。

3. 電池ふたを取り付ける

電池ふたの下のツメを本体底面の穴にはめてから、電池ふたのふたつのツメがカチッと音がするまで押し込んでください。



※ 丸数字は入れる順番です。

※ 本体の電池ふた上部にある電池マークの数値は、電池を入れる順番ではありません。

音量・音質を調節する



注意 大音量での再生に注意する。
周囲に迷惑をかけるだけでなく、聴力に影響をおよぼす場合があります。

1. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する

音量つまみを左に回すと音量が小さくなり、右に回すと音量が大きくなります。

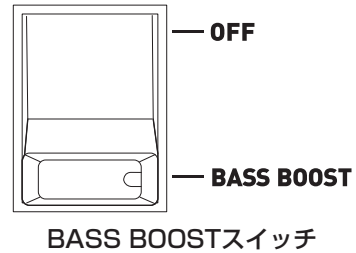
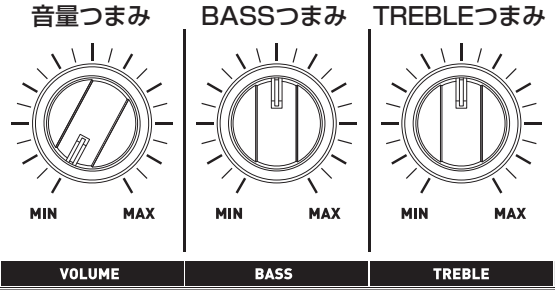
電源を入れるときなど、音量を最小にしてください。

2. BASSつまみ(低音)・TREBLEつまみ(高音)を回して、音質を調節する

つまみを右に回すと各音域が強調されます。

3. 低音を強調する(重低音)場合は、BASS BOOSTスイッチを操作する

「BASS BOOST」側になると、低音がさらに強調されます。



イヤホンを使用する

1. 音量つまみを左に回し、音量を最小にする

2. 本体左側面にあるイヤホン端子にイヤホンを接続する

イヤホン端子にイヤホンを接続すると、スピーカーから音が出なくなります。接続したイヤホンを取りはずすと音が出るようになります。

※本機のイヤホン端子は 3.5 mm 3極ステレオミニ端子です。

3. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する



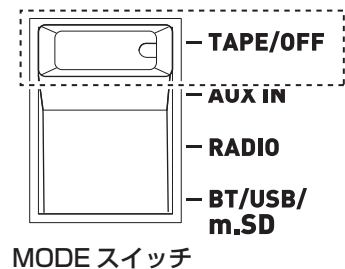
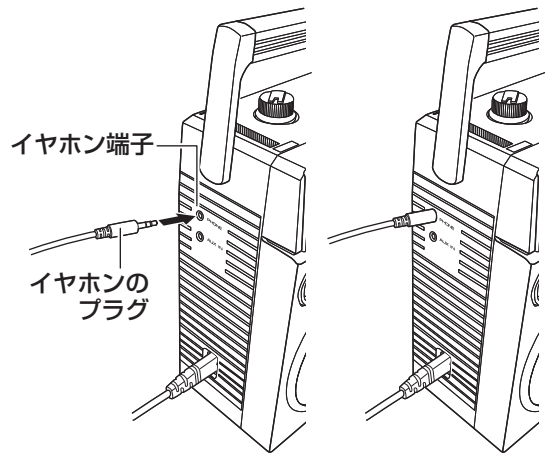
注意 イヤホンを使って大音量で長時間聴くことはしない。
聴力に影響をおよぼす場合があります。

電源を切る

使用を終えたときに、乾電池や家庭用電源をムダに消費しないように、以下の操作をします。

1. MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

※カセット操作部のボタンは、STOP/EJECTボタンを押して、すべて解除してください。ボタンが押されたままの状態では電力を消費することがあります。








警告 使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
火災・故障の原因になります。

カセットテープを使用する

カセットテープを操作するには、本体上面のカセット操作部を使います。

※「カセットテープについて」(→ 4 ページ) もお読みください。

カセットテープを再生する

1. MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする
2.  STOP/EJECTボタンを押してカセットホルダーを開け、カセットテープを入れる
3. カセットホルダーを閉める
4. カセット操作部のボタンでカセットテープを操作する

PLAY 再生

・再生します。

PAUSE 一時停止

・再生中・録音中に一時停止します。もう一度押すと、再開します。

FF 早送り

・早送りする(再生位置を進める)ことができます。

REW 巻戻し

・巻戻しする(再生位置を戻す)ことができます。

STOP/EJECT 停止/取り出し

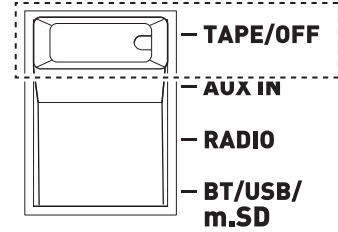
・カセットテープの再生・録音を停止することができます。

・早送り・巻戻しを解除することができます。

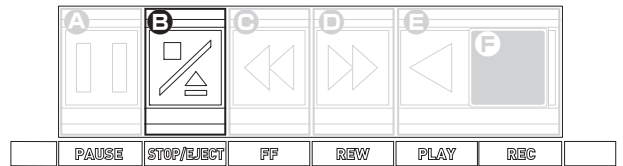
・カセットテープが停止状態の時に押すと、カセットホルダーが開きます。

5. カセットテープを聴き終わったら、 STOP/EJECTボタンを押して確実に停止させる

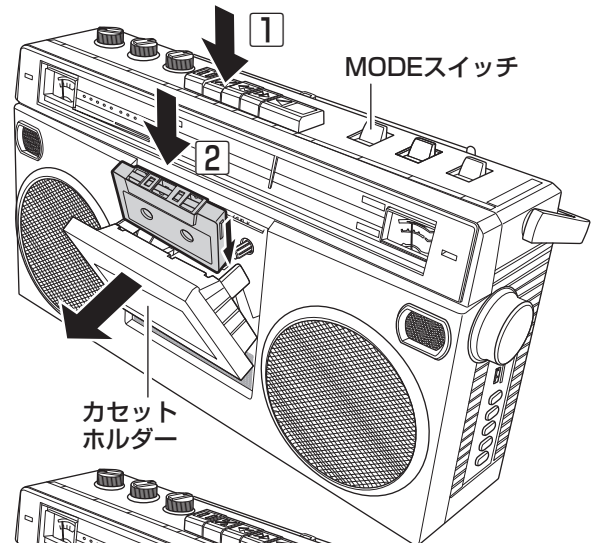
・本機はフルオートストップ機能が搭載されています。再生・録音・早送り・巻戻し時にテープの最後までいくと自動的に停止します。



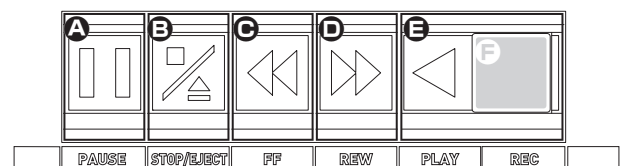
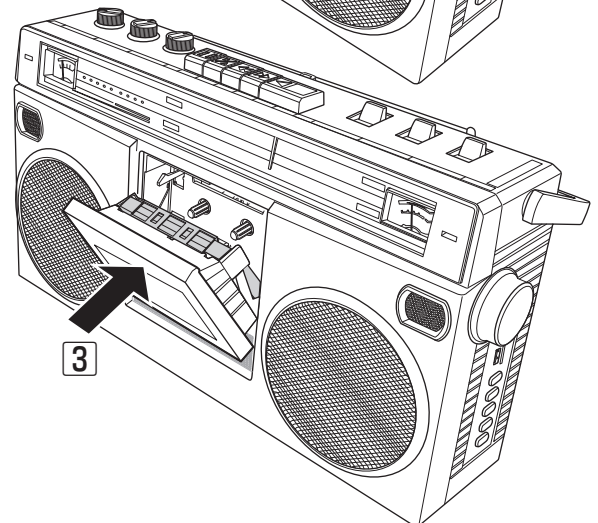
MODE スイッチ



カセット操作部



カセットホルダー



カセット操作部

カセットテープに録音する

本機は、以下の音声をカセットテープに録音することができます。

- ・本機内蔵マイク
- ・AUX IN外部入力端子に接続された機器
- ・接続されたBluetooth機器
- ・USBメモリー/microSDカードに収録された音声データ
- ・ラジオ(AM, FM)

※「カセットテープについて」(→4ページ)もお読みください。

1. STOP/EJECTボタンを押してカセットホルダーを開け、カセットテープを入れる

カセットテープはテープが見える側を上、録音したい面を手前に入れてください。

2. 録音したい音声を再生する

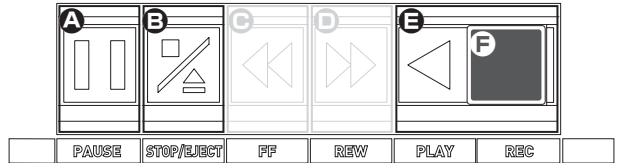
本体正面左上のLED入力レベルメーターに入力レベルが表示されます(内蔵マイクは入力レベルが表示されません)。

ラジオ・BT接続・USB・microSDから録音する場合
録音レベルが自動調節されます。

AUX入力から録音する場合

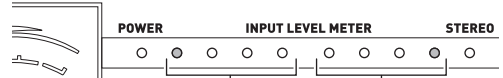
録音レベルが自動調節されないため、外部再生機器に出力レベルを調節する機能がある場合は、LED入力レベルメーターを確認し、端の赤色が時々点灯する程度に調節してください。

- ・レベルが高いと(赤色が常時点灯)音割れすることがあります。
- ・レベルが小さいと(緑色が1~2つ程度)、音が小さくてテープのノイズに埋もれてしまいます。



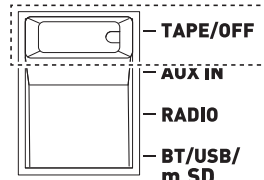
カセット操作部

LED入力レベルメーター

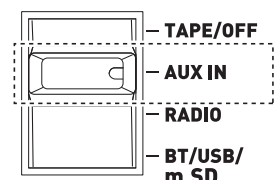


左入力レベル 右入力レベル

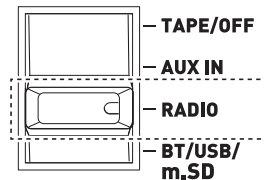
①内蔵マイクから録音 [TAPE/OFF に設定]



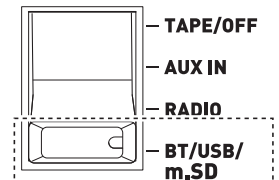
③AUX IN外部入力機器 [AUX INに設定]







②ラジオから録音 [RADIO に設定]



④Bluetooth機器、USBメモリー、microSDカードから録音 [BT/USB/m.SDに設定]



3. カセット操作部の RECボタンを押すと録音が始まる

- ・ RECボタンを押すと PLAYボタンも同時に押されます。
- ・録音中に本機の音量つまみを操作しても録音に影響ありません。
- ・テープの最後までいくと自動的に録音を停止します。

特にAUX入力からの録音中は、LED入力レベルメーターを確認し、外部再生機器の(音量など)出力レベルを調節して、適切な音量になるようにしてください。

4. 録音を一時停止するには PAUSEボタンを押す

- ・もう一度、 PAUSEボタンを押すと録音が再開されます。

5. 録音を停止するには STOP/EJECTボタンを押す



注意 外部機器の音量設定に注意する。
大きすぎると音が割れ、小さすぎると音がノイズに埋もれてしまう原因になります。

本機内蔵マイクから録音する①(→12ページ)

AUX IN外部入力機器から録音する③

AUX IN外部入力端子に外部再生機器を接続し、MODEスイッチを「AUX IN」の位置にして再生させます(→13ページ)。

ラジオから録音する②

MODEスイッチを「RADIO」の位置にしてラジオを受信させます(→12ページ)。

Bluetooth機器から録音する④

MODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にしてBluetooth機器を接続し、再生させます(→14ページ)。

USBメモリー/microSDカードから録音する⑤

USBメモリーまたはmicroSDカードを本体に取り付け、MODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にしてUSBメモリーまたはmicroSDカードを再生させます(→16ページ)。

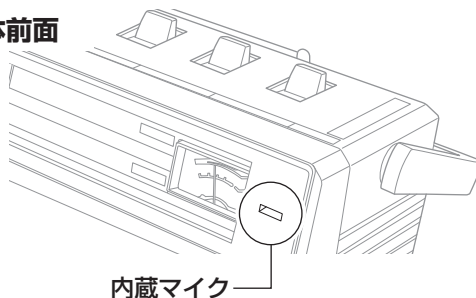
カセットテープを使用する (つづき)

内蔵マイクから録音する

本機にはマイクが内蔵されています(右側のみ・モノラル)。MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にして■RECボタンを押すと、まわりの音をカセットテープに録音することができます。

- 大切な録音のときは、試しに録音してみるなど、十分にテストを行なってください。
- 内蔵マイク録音時は、入力レベルメーターは表示されません。録音レベルは自動調節されます。

本体前面



ラジオを聴く

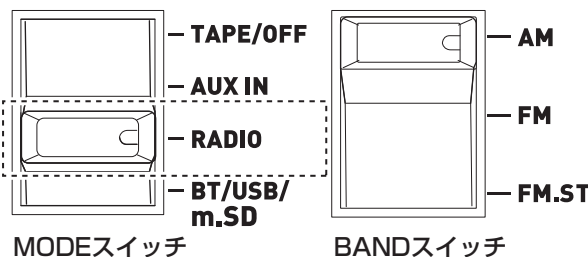
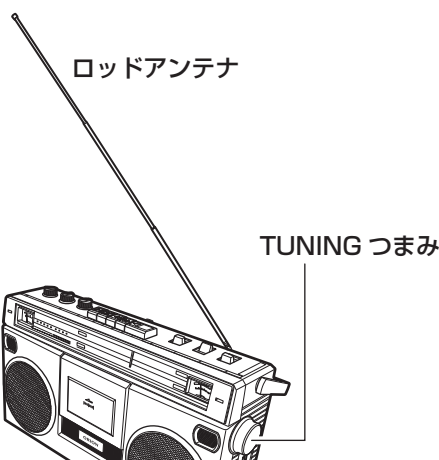
FMラジオ・AMラジオを聴く

本機ではFM放送とAM放送を聴くことができます。FM放送は76~108MHzの受信ができ、FM補完放送(ワイドFM)に対応しています。

1. MODEスイッチを「RADIO」の位置にする
2. BANDスイッチで「AM」または「FM.ST」を選ぶ
3. TUNINGつまみで聴きたいラジオ局の周波数に合わせる

周波数表示を目安にTUNINGつまみを回し、ラジオ局の周波数に合わせます。

- 受信状態を向上させるには、電波をできるだけさえぎらないように、より窓際へ設置します。
- FM放送の受信状態を向上させるには、ロッドアンテナを伸ばしたり、角度を変えたりしてください。
- BANDスイッチが「FM.ST」のときに、FM放送受信でステレオ受信すると、本体前面のSTEREOインジケータ(LED入力レベルメーターの右側)が緑色に点灯します。
- AM放送の受信状態を向上させるには、AMのアンテナが本体内部にあるため、本体の向きや高さを変えてください。



FM	FREQUENCY MODULATION	76	82	87	92	98	103	108	76~108	MHz
AM	AMPLITUDE MODULATION	530	750	900	1100	1300	1450	1600	530~1629	kHz

周波数表示



注意 テレビの近くで AM 放送を受信すると雑音が入ることがあります。テレビなどから離して使用してください。

4. 「FM.ST」でFM放送が聴きにくい場合は、BANDスイッチを「FM」にする

FM放送の電波が弱く、安定したステレオ受信ができないときなどは、「FM」にすることによって聴き取りやすくなります(FM放送はモノラルになります)。

ラジオの音声は、カセットテープ(→11)、USBメモリー、microSDカード(→18ページ)に録音することができます。

5. ラジオを聴き終わったら、MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

電源が切れます。



ラジオを聴かないときは、ロッドアンテナをたたんでおく。
けが・破損・故障の原因になります。

AUX IN外部入力を聴く

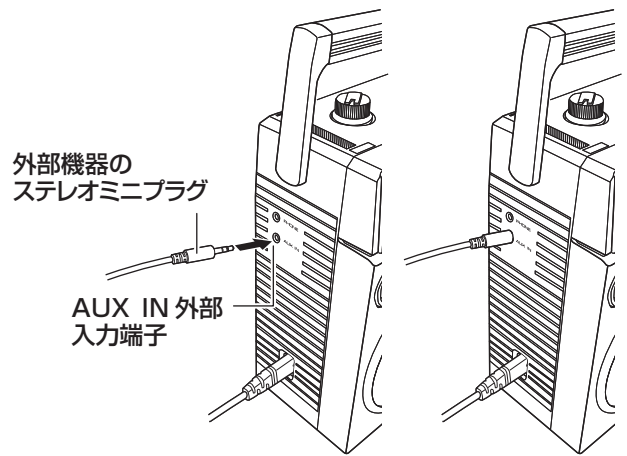
側面のAUX IN外部入力端子に接続した外部機器の音を聴く

本体側面のステレオミニ端子に接続した機器の音を聴くことができます。

1. 側面のAUX IN外部入力端子に外部再生機器を市販のステレオミニプラグで接続する
2. 本機のMODEスイッチを「AUX IN」の位置にする

AUX IN外部入力端子に接続した外部機器の音を聴くことができます。

外部再生機器に出力レベルを調節する機能がある場合は、LED入力レベルメーターを確認し、端の赤色が時々点灯する程度に調節してください。



外部機器の音量設定に注意する。
大きすぎると音が割れ、小さすぎると音がノイズに埋もれてしまう原因になります。

3. 音量つまみを回して、適切な音量に調節する

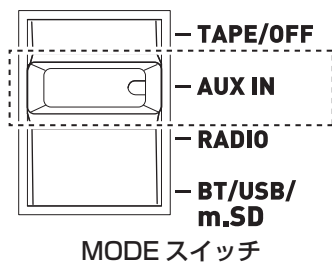
音量つまみを左に回すと音量が小さくなり、右に回すと音量が大きくなります。

4. 外部入力を聴き終わったら、MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

電源が切れます。

AUX IN外部入力の音声は、カセットテープ (→11ページ)、USBメモリー、microSDカード (→18ページ) に録音することができます。

AUX IN外部入力の音声をカセットテープに録音するときは、接続した音源の出力レベル (音量など) に注意してください。(→11ページ)



Bluetooth機器を聴く

Bluetooth機器の設定

- Bluetoothデバイスの接続設定をすることを「ペアリング」といいます。
 - ペアリングするときは、両方の機器を1m以内に置いてペアリング設定をしてください。
 - 本機は一度に1台のBluetooth機器しか接続できません。
- ※「Bluetoothについて」(→5ページ)もお読みください。

本機は以下の手順でBluetooth機器と接続（ペアリング接続）することができます。

Bluetooth 機器との初めての接続

1. 本体側面からUSBメモリー・microSDカードを取りはずす
2. ペアリングしたいBluetooth機器の電源を入れる

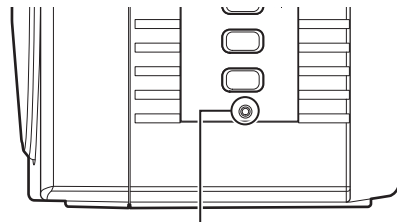
Bluetooth接続モードにしておきます。

3. 本機のMODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にする
動作インジケータが青色点滅します。
4. 接続するBluetooth機器のサーチ機能进行操作して、本機の製品名「SCR-B7」を検索する

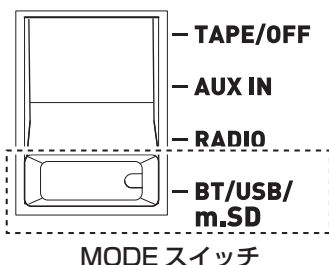
検索が完了すると、接続する外部機器のディスプレイに「SCR-B7」が表示されますので、それを選択し「ペアリング」を開始します。

- ※ ペアリング接続・設定方法は、お使いのBluetooth機器の取扱説明書をご覧ください。
- ※ PINコードが要求された場合は、4桁の数字「0000」を入力してください。

5. 接続が成功すると、信号音が鳴る
動作インジケータが青色点灯に変わります。



動作インジケータ
Bluetooth接続時は青色に点灯



MODE スイッチ

Bluetooth機器との2回目以降の接続

一度ペアリングをしたBluetooth機器は、2回目以降は自動的に接続されます。再接続されないときは、「Bluetooth機器との初めての接続」の手順に従って再度接続してください。

※ 接続するBluetooth機器によっては、自動的に接続されないことがあります。本機の故障ではありません。

別のBluetooth 機器との接続

別のBluetooth機器を本機に接続したいときは、現在接続されている機器の接続を切断してください。本機は一度に1台の機器しか接続できません。

1. 接続していた外部機器のBluetooth機能をオフにする
 - 接続中の外部機器に表示されている、本機の製品名「SCR-B7」の登録を解除します。
2. 別の外部機器と「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう
3. 接続できないときは、側面操作部のMODE/FOLボタンを長押しして、再度「Bluetooth機器との初めての接続」を行なう

※ Bluetooth機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。

注意

本機は SCMS-T に対応していません。接続するBluetooth機器がSCMS-T対応のときは、ご使用になれないことがあります。詳しくはお使いのBluetooth機器の取扱説明書をご確認ください。

Bluetooth機器の再生と操作

Bluetooth機器の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

1. 「Bluetooth機器との初めての接続」の設定・ペアリングを行なっておく
2. 本機とBluetooth機器が接続していることを確かめる
※ Bluetooth機能の接続、切断操作につきましては、お手持ちの外部機器の取扱説明書もあわせてご確認ください。
3. 本機に接続したBluetooth機器で再生を始める

側面操作部のボタンで、接続したBluetooth機器のコントロールができます。

※ 接続したBluetooth機器の音声出力レベルにも注意してください。出力レベルが小さい場合は正しく再生されないことがあります。

本機で操作できるBluetooth外部機器の機能

- **PLAY/REC.** 再生/REC.ボタン 再生／一時停止
- **▶▶** 順スキップボタン 順スキップ
- **◀◀** 逆スキップボタン 逆スキップ

※ このコントロールする機能は、BluetoothのAVRCPプロファイル対応機器との接続時のみ機能します。

※ お使いのBluetooth機器によっては正しく操作できない場合があります。

Bluetoothで受信・再生している音声は、カセットテープ(→11)に録音することができます。

Bluetoothで受信・再生している音声をカセットテープに録音するときは、接続した音源の出力レベル(音量など)に注意してください。(→11ページ)

⚠注意

Bluetooth接続して再生や録音をしているとき、接続状況(まわりの環境や電波障害など)によって正しく再生・録音ができないことがあります。送信側のBluetooth機器とは受信に問題ない距離を保ち、間に障害物を置かないなど、安定した接続ができるように注意してください。

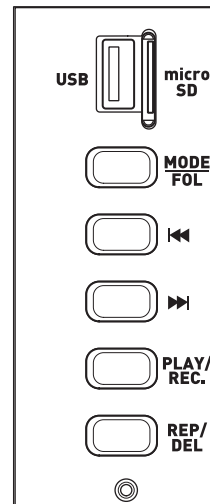
4. 再生を終えたら、MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

電源が切れます(カセット操作部を操作していない場合)。

microSDカード・USBメモリーからBluetooth再生への切り替え

ほかのメディア(microSDカード・USBメモリー)接続・再生中にBluetooth受信に切り替えることができます。

1. 側面操作部の **MODE/FOL** ボタンを何度か押して、動作インジケータを青色にする
2. 本機とBluetooth機器が接続していることを確かめる



側面操作部

⚠注意

本機は Bluetooth レシーバー(受信機)機能を持つものであり、Bluetooth トラランスミッター(送信機)機能はありません。そのため本機のカセットテープや外部入力の音を送信して、Bluetooth ヘッドホンで聴くことはできません。本機の音を Bluetooth 機器で楽しむには、ステレオミニプラグ対応の市販の Bluetooth トラランスミッターを購入し、イヤホン端子に接続して送信してください。

USBメモリー/micro SDカードのMP3を聴く

本機では、USBメモリー/micro SDカードに記録されたMP3ファイルを再生することができます。
 ※「USBメモリー、micro SDカードについて」(→4ページ)もお読みください。

1. MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする
2. USB端子にUSBメモリーを接続する、またはmicro SDカードの場合はSDカードスロットに接続する

右図のようにmicro SDカードは端子側(金属部分)を左側にして本体前面側、micro SDカードのラベル面を本体裏側にして、「カチッ」と音がするように取り付けてください。

3. MODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にする

USBメモリーまたはmicro SDカードを認識すると、信号音が鳴ります。

- ・USBメモリーとmicro SDカードについては、後から接続、認識したメモリーが優先して再生されます。

4. 自動で再生が開始される

再生中は動作インジケータが赤色で点灯または点滅します。

5. 側面操作部のボタンで操作する

再生/REC.ボタン 再生/一時停止

順スキップボタン 順スキップ

次の曲を再生します。
 ・最後の曲の次は、最初の曲に戻ります。

ボタンを長押し：早送り

逆スキップボタン 逆スキップ

ひとつ前の曲を再生します。
 ・最初の曲の前は、最後の曲にスキップします。

ボタンを長押し：早戻し

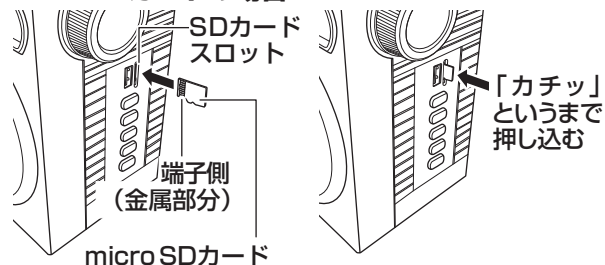
MODE/FOLボタン

短く押すとMODEの切替(Bluetooth・USBメモリー・micro SD)ができます。(→17ページ)
 再生中に長押しすると再生されるフォルダの切替ができます。

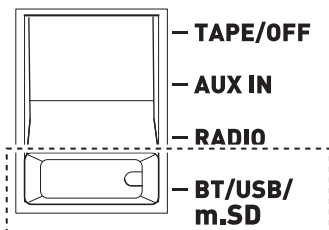
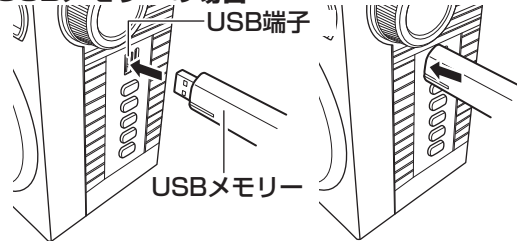
REP/DELボタン

再生時のリピート機能の切替をします。
 短く押すたびに リピートオフ《赤色点灯》⇒1曲リピート《赤色早点滅》⇒全曲リピート《赤色遅点滅》⇒リピートオフ《赤色点灯》....(くりかえし)

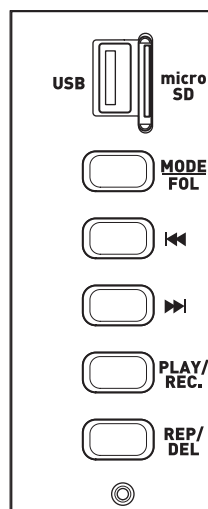
micro SDカードの場合



USBメモリーの場合



MODEスイッチ



側面操作部



注意

REP/DELボタンを押すときは、十分に注意する。

REP/DELボタンを長押しすると、再生中の音声ファイルを消去することになります(「micro SDカード・USBメモリーに録音された音声の消去」→19ページ)。

6. 再生/REC.ボタンで再生を停止させる

動作が停止すると動作インジケータが紫色の点灯に変わります。

7. 再生を終えたら、MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

電源が切れます。

⚠注意

- 動作インジケータ点滅中はUSBメモリ/micro SDカードを抜き差ししない。データが破損する原因になります。
- ファイルに適切な拡張子 [.mp3] を付ける。
拡張子が付いていないと、音楽ファイルと認識しません。また、実際のファイル形式と違う拡張子が付いていると、異音を発生する恐れがあります。
- USBメモリ/micro SDカードの抜き差しをするときには、(金属にさわるなどして)体の静電気をなくしておく。
空気が乾燥して静電気が起こりやすい環境のとき、USBメモリ/micro SDカードを扱うと、データを破壊してしまうことがあります。
- 本機のUSB端子でスマートフォンや携帯電話の充電はできません。
- 本機はmicro SDカード専用です。

Bluetooth・USBメモリー・microSDカードの切り替え

複数のメディア(Bluetooth受信・USBメモリー・microSDカード)が接続・受信されている場合、それぞれを切り替えて聴くことができます。

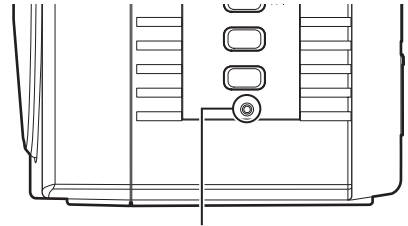
1. 側面操作部の MODE/FOLボタンを押す

押すたびに Bluetooth・USBメモリー・microSDカードが切り替わります。

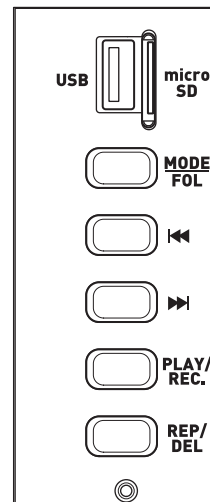
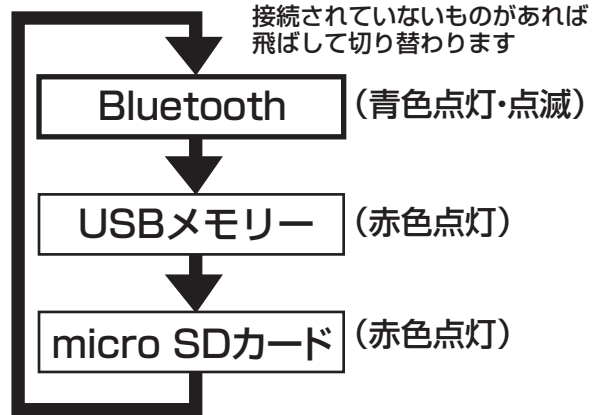
⚠注意

microSDカード・USBメモリーの接続中(動作インジケータの点灯・点滅中)に取り付け・取りはずしをしない。
microSDカード・USBメモリーが取り付けられると、本機は最後に取り付けられたものの再生を自動で行なうため、突然音が切り替わり、耳にもスピーカーにも悪影響を与える恐れがあります。

※ USBメモリーとmicroSDカードの選択がわかりにくいとき(特に特定のメディアに重要な再生・録音をするとき)は、片方のみ接続して操作しやすくしてください。



動作インジケータ
Bluetooth接続時は青色に点灯



側面操作部

USBメモリー/micro SDカードにMP3録音する

本機では、以下の音声をUSBメモリー/microSDカードにMP3ファイル形式で録音することができます。

- ・カセットテープ ・本機内蔵マイク ・ラジオ
- ・AUX IN 外部入力端子に接続された機器

※「USBメモリー、micro SDカードについて」(→4ページ)もお読みください。

1. 録音(収録)するメディアを取り付ける(USB端子にUSBメモリーを接続する、またはmicro SDカードの場合はSDカードスロットに接続する)

録音するUSBメモリーまたはmicro SDカードのみ接続し、録音(収録)しないものは、取り付けしないでください。

2. 録音したい音声を再生する

カセットテープから録音する①

MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にしてカセットテープを再生させます(→10ページ)。

AUX IN外部入力機器から録音する②

AUX IN外部入力端子に外部再生機器を接続し、MODEスイッチを「AUX IN」の位置にして再生させます(→13ページ)。

外部機器からの録音レベルは自動調節されません。外部機器の音声出力を、入力レベルメーターの赤ランプが時々点灯するレベルに調節してください。

ラジオから録音する④

MODEスイッチを「RADIO」の位置にしてラジオを受信させます(→12ページ)。

本機内蔵マイクから録音する③

MODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にすると内蔵マイクから録音することができます(→19ページ)。

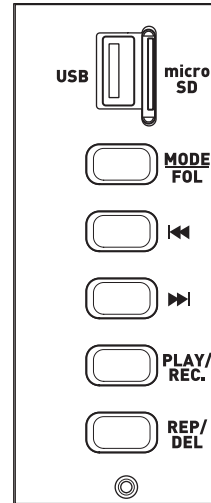
3. 側面操作部の 再生/REC. ボタンを長押しして録音を開始させる

録音が始まされると、動作インジケータが赤と青に交互に点灯します。

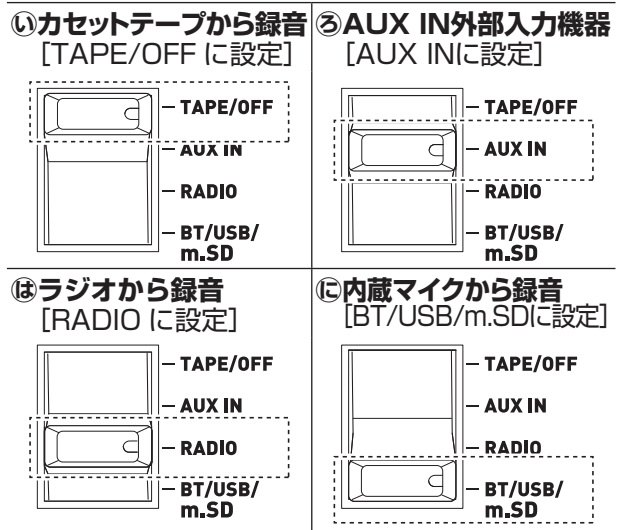
※カセットテープから録音する場合のみ、動作インジケータは赤のみ点滅します。

4. 録音を停止させるには、 再生/REC. ボタンを押す

動作が停止すると動作インジケータが消灯します。



側面操作部



5. 録音を終わったら、MODEスイッチを「TAPE/OFF」の位置にする

電源が切れます。



注意

動作インジケータ点滅中はUSBメモリー/microSDカードを抜き差ししない。データが破損する原因になります。


作成されるファイルについて

- USBメモリー、microSDカードに録音すると自動で「JL_REC」というフォルダが作成されます。
- 最初の録音をすると、フォルダ内に「FILE0001.MP3」というファイルが作成され、それから順番に数値が大きくなったファイル名で音声ファイルが作成されます。
- 作成されるファイル

録音する音声	カセットテープ、ラジオ、AUX入力、内蔵マイク
コーデック	MP3
ビットレート	128 kbps
サンプリングレート	48 kHz

- 録音されたファイルは、フォルダ内の最後に作成されます。
- パソコンなどに接続してファイル名を変更することにより、順番など変更することができます。


内蔵マイクから録音する

本機にはマイクが内蔵されています(右側のみ・モノラル)。MODEスイッチを「BT/USB/m.SD」の位置にして側面操作部の  再生/REC. ボタンを長押しすると、まわりの音をUSBメモリー/microSDカードに録音することができます。

- Bluetooth接続中は、内蔵マイクから録音できません。Bluetoothの接続を解除してください。
- 大切な録音のときは、試しに録音してみるなど、十分にテストを行なってください。
- 録音するUSBメモリーまたはmicroSDカードのみ接続し、録音(収録)しないものは、取り付けないでください。
- 録音レベルは自動調節されます。内蔵マイクからの録音時、入力レベルメーターは表示しません。

microSDカード・USBメモリーに録音された音声の消去

録音を失敗したときなど、録音した音声を消去することができます。

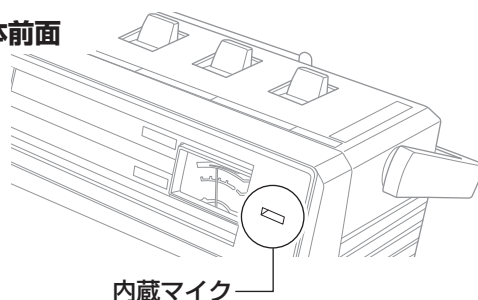
1. 「USBメモリー/microSDカードを聴く」(16ページ)に沿って消去したい音声を再生する
2. 側面操作部の  REP/DEL ボタンを長押しして消去させる
「ピッ」と音がして、再生していた音声が消去され、次の音声再生されます。

⚠注意

元に戻すことができないため、消去は慎重に行なう。

取り付けておくのは、消去するファイルが保存されたmicroSDカード・USBメモリーのみ取り付けておくようにしてください。

本体前面



内蔵マイク

⚠注意

録音する音量に注意する。

大きすぎると音が割れ、小さすぎると音がノイズに埋もれてしまう原因になります。

お手入れのしかた



- 修理技術者以外の人は分解や修理をしない。
- お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
感電・火災・けがの原因になります。



- ベンジン・シンナーでは拭かない。
変色や変形の原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従って使用する。
変色・キズの原因になります。
- 本体に水をかけたりしない
感電・故障の原因になります。

本体のお手入れ

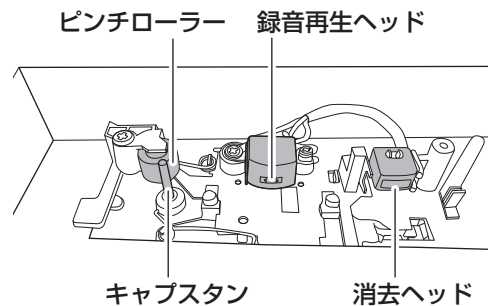
本体の汚れは、ぬるま湯か台所用洗剤に浸してかたくしぼった柔らかい布で拭き取り、さらに乾いた布でやさしくから拭きをしてください。(樹脂部分は強くこすらないでください。傷つきの原因となります。)

カセットヘッド部のクリーニング

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長時間使用すると磁粉やゴミ、ホコリなどが付いて汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪くなったり、音が小さくなる、前の音が消えないで残る、などの症状がでます。カセットホルダーを開け、市販のクリーニングキットで清掃します。ホコリなどは、市販のクリーニングキットのブロワーを使って掃きだしてください。

- 綿棒にクリーナー液をしみこませ、ヘッド（テープに触れる面・特に色が変わっている部分）やピンチローラー、キャプスタンを拭き取ります。
- クリーナー液を使用した場合、十分乾いてからテープを取り付けてください。乾く前に取り付けると、録音内容が消えるなど、テープに悪影響を与えます。

※「免責事項」(→ 5 ページ) も必ず確認ください。



※ ■ REC ボタンと ◀ PLAY ボタンが押されて録音再生ヘッドと消去ヘッドが下がっている状態

修理・サービスを依頼する前に

警告 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない。

「故障かな？」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
共通部		
電源が入らない	・電源コードがはずれている	電源コードを本体の電源端子に、電源プラグをコンセントに接続する
	・乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	・乾電池の向きがおかしい	乾電池を正しく入れなおす
音が出ない	・MODEスイッチが目的のモードに設定されていない	MODEスイッチを目的のモードの位置にする
	・イヤホン端子にイヤホンが接続されている	イヤホンを取りはずす
イヤホン端子にイヤホンを接続しても正しく聴こえない	・イヤホンのミニプラグが奥まで差し込まれていない	ミニプラグを奥まできちんと差し込む
	・4極以上のミニプラグのイヤホンを使用している(4極以上のミニプラグは正しく使用できないことがあります)	3極のステレオミニプラグイヤホンを使用してみる、または変換プラグなど使用してみる
マイクの録音音質がよくない	・マイクの前に障害物がある	マイクの周りを確認する
雑音が入る	・近くで電波など発する機器(携帯電話など)を使用している	電波など発する機器から離す、もしくは電波など発する機器を離す
正常な動作をしない		一度電源プラグを抜いて接続しなおす、または乾電池をはずして入れなおす
ラジオ部		
雑音が入る	・テレビなどが近くにある	テレビなどから離す
	・乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	・電波状態が悪い	・ロッドアンテナを立てる(FM)、窓ぎわなどで試してみる ・BANDスイッチが「FM.ST」の場合は「FM」に切り替えてみる
Bluetooth部		
音が出ない	・Bluetooth機器との距離が遠い	Bluetooth機器と本機を10m以内に近づける
	・無線LANや電子レンジ、無線機器などの影響を受けている	影響しそうな機器の使用をやめてみる
	・正しくペアリングされていない	もう一度ペアリングしてみる
	・SCMS-Tの送信	本機はSCMS-Tに対応していません
音が出ない・音が小さい	・Bluetooth機器の出力音量が0になっている・音量が小さくなっている	Bluetooth機器の音量を調節する(音量を上げる)
ペアリングできない	・Bluetooth機器との距離が遠い	Bluetooth機器と本機を1m以内に近づけてペアリングする
	・Bluetooth機器側の問題	電源など十分に確保してから試してみる
	・先に別のBluetooth機器が接続されている	別のBluetooth機器が接続されていないか確認する
Bluetooth機能が動作しない	・USBメモリーまたはmicro SDカードが接続されている	USBメモリーまたはmicro SDカードを取りはずす

修理・サービスを依頼する前に（つづき）

症状	主な原因	処置
USBメモリー部		
USBメモリーを認識しない	・USBメモリーがFAT32以外のファイルシステムでフォーマットされている	USBメモリーをFAT32でフォーマットしなおす
	・USBハブなど介して接続している	本体に直接接続する
	・大容量のものを使用している	32GB以下のものを使用する
	・HDDを接続している	USBメモリーを使用する
録音されない	・容量がいっぱいになっている	不要なファイルを消去する
充電されない	・本機は充電対応になっていません	充電には使用しない(できない)
SDカード部		
microSDカードを認識しない	・microSDカードがFAT32以外のファイルシステムでフォーマットされている	microSDカードをFAT32でフォーマットしなおす
	・大容量のものを使用している	SDHC32GB以下のものを使用する
	・正しく取り付けられていない	挿入方向など確認し正しく取り付ける
録音されない	・容量がいっぱいになっている	不要なファイルを消去する
カセットデッキ部		
カセットが入らない	・逆向きに入れようとしている	テープが見える側を上にして入れる
テープが機械に巻きつく	・ピンチローラーやキャプスタンが汚れている	クリーニングをする
	・テープがたるんでいる	たるみをなくしてから入れる
	・長時間テープを使用している	90分以上のテープは薄く、静電気などの影響で巻きつきやすいため使用しない
音がとぶ	・ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
録音ができない	・ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
	・カセットテープが入っていない	カセットテープを入れる
	・カセットテープの消去防止ツメが折れている	ツメの部分をテープでふさぐ
	・リーダーテープ部分に録音しようとしている	リーダーテープ部分には録音できません
録音された音が割れていた／録音された音が小さい	・録音したときに入力レベルが大きかった／小さかった	Bluetooth機器またはAUX入力機器から録音をするときは、出力を調節して、入力レベルに注意する(→11ページ)
前の録音が完全に消えない	・ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
	・ノーマルテープ以外のテープを使用している	ノーマルテープを使用する
雑音が多い 音質がよくない	・ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする
	・乾電池が消耗している	新しい乾電池に交換する
	・古いカセットデッキでN.R.(ノイズリダクション)を使用して録音したテープを再生している	本来同じN.R.搭載のデッキで再生する必要がありますが、どうしても本機で再生する場合は、N.R.に対応していないため音質を調節して対応する

症状	主な原因	処置
外部入力部		
音が出ない	・正しく接続されていない	正しく取り付ける
音が出ない・音が小さい	・外部機器の音量が0になっている ・外部機器の音量が小さくなっている	外部機器の音量を調節する(音量を上げる)

長年ご使用の製品はよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・電源コードや電源プラグが異常に熱い。
- ・コードを動かすと、通電したり、しなかったりする。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。

このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店またはドウシヤカスタマーセンターに点検をご相談ください。

主な仕様

仕 様

電 源	AC100V 50/60Hz DC9V 単1形乾電池×6本
乾電池連続使用時間*	ラジオ受信時 : 約 30 時間 カセットテープ再生時 : 約 20 時間 USB/SD MP3 再生時 : 約 20 時間 Bluetooth 接続時 : 約 25 時間
消費電力	32W (動作時。スタンバイ時 2W)
定格出力 (THD: 10%)	7W + 7W
スピーカー	フルレンジ 12.5cm、ツイーター 3cm インピーダンス 8Ω
受信周波数	FM: 76.0 - 108.0MHz AM: 530 - 1629kHz
USB 端子	使用可能 USB メモリー 32GB 以下 FAT32
SD カードスロット	使用可能 micro SD カード SDHC 32GB 以下 FAT32
USB/SD カード録音形式	MP3、ビットレート: 128 kbps、サンプリングレート: 48 kHz
カセットデッキ部	ステレオ録音/再生 2ヘッド フルオートストップメカタイプ
Bluetooth 部	Ver.5.1 対応プロファイル: A2DP、AVRCP 対応コーデック : SBC
外形寸法	(約) 幅 425 × 奥行 118 × 高さ 235 mm (突起物含む)
質 量	(約) 3.2 kg (本体のみ)

* ボリューム30%、新品のアルカリ乾電池使用時。

* 周囲の温度や使用条件により、連続使用時間は異なることがあります。

● 仕様などは改善・改良のため、予告なく変更することがあります。

● この製品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。

(This unit can not be used in foreign countries as designed for Japan only.)

株式会社ドウシシャ

〈東京本社〉〒108-8573 東京都港区高輪2-21-46

〈大阪本社〉〒542-8525 大阪府大阪市中央区東心斎橋1-5-5

■故障・修理についてのご相談に関しては…

⇒ドウシシャ カスタマーセンター

【受付時間】9: 00～ 17: 00(土日祝以外の月～金曜日)

〒915-0801 福井県越前市家久町41-1

TEL 0778 (24) 2779 FAX 0778 (24) 2799

※ 製品名、型番をご確認のうえ、お電話をいただきますようお願い致します。

※ FAXもしくは、お電話をいただいた際にお話いただく情報は、お客様へのアフターサービスにおいて利用させていただきますので、ご了承ください。